

社会科学習指導案

日時 平成18年11月15日(水)5校時
学級 1年1組(男17名女16名計33名)
授業者 笠神康史

1 単元名 第3章 中世の日本 「2 東アジア世界とのかかわりと社会の変動」

2 単元について

(1) 教材観

本単元は学習指導要領の大項目(3)「中世の日本」の中項目イに含まれる内容である。

この単元では、「武家社会の展開を南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させる。」ことや「元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など東アジア世界との関わり」に気づかせる」ことをねらいとしている。

土地を仲立ちとして封建社会が成立し執権政治が進められていた鎌倉時代後期、モンゴルの襲来を受け御家人の窮乏が深まるとともに、経済の発展を背景に悪党などが出現したことなど執権政治に対する反感が強まり鎌倉幕府が滅び、天皇親政を目指す建武の新政が始まる。新政に対する武士の失望から足利尊氏を将軍とする室町幕府が武士の政権として全国的な政権となり日本の支配を行っていくが、守護大名の連合体としての政権であったため、強力な将軍がいないときにはとくに戦いが連続する不安定な時代であった。

一方東アジアでは世界的な巨大な帝国であるモンゴル帝国、元のあとに漢民族の支配する明が成立し、日本は明との貿易を中心として琉球や朝鮮、アイヌの人々との交流を深めていく。また一部の日本人は倭寇となり朝鮮半島において貿易を強要するなど海外で活動を行うものもいた。

やがて、応仁の乱を契機にして、将軍権力から離脱し自分の実力で領国を支配する戦国大名が出現し旧来の権威にとらわれない下克上の世の中となる。この動きは農業や手工業の発達を背景として成長し村や都市での自治を行った民衆の動きと連動し全国に広まっていった。

この単元は、鎌倉幕府から室町幕府へ移り変わる様子、そして室町幕府の支配体制をとらえることで武家社会の変化を理解するとともに、自分たちの主張を行動で権力側に示して実現させていく民衆の動きを学ぶ教材であると考えられる。

(2) 生徒観

入学以来、地理的分野も歴史的分野の両方とも履修しているが、歴史的分野に対しては小学校での人物中心の学習から出来事やその背景を探ることによって歴史的事象をとらえていく学習に移ったことによるとまどいを感じられる。これまでの定期テストや単元テストから分析すると、人物名やその人物が行ったおもなことは理解が進んでいるようだが、それが関係づけられていたり歴史上のどの位置に当たるのか、またその因果関係についてはこれから理解を深めていかなければならない段階である。また、資料から読み取る力や考える力、また考えたことを表現する力が劣っている。

生徒たちは、歴史についての関心は深いとはいえないものの、ノートをしっかり取ることや話を聞くなど基本的な姿勢はできつつあると考える。中位の生徒が多いが、知識の理解に苦しむ生徒が数名いるので、繰り返しドリル学習を取り入れることで理解を進めていきたい。また積極的に自分の意見を話したりしていくことが全体的に苦手であるので、グループ活動での発表や音読での工夫を行って表現力や理解力を高めていきたい。

(3) 指導観

鎌倉時代の将軍と御家人との土地を仲立ちとした封建体制から、将軍と地頭の間には守護大名が入り込みその守護大名が権力の中核を担うなど複雑な時代となり、民衆の動きが経済の発展とともに活発になるなど人物学習中心だった小学校で学習してきた生徒にとって理解しにくい単元であると考えられる。将軍として政治をリードした人物や戦国大名として活躍した人物に注目させながら、図版や写真、地図などをもとにして思考を深めていくような授業を心掛けたい。また、思考を深める際にグループ学習を取り入れることで交流を図り自分の考えたこと深めさせたい。そして、学習したことを繰り返し声に出して話すことや、ドリル学習、単元のまとめを自分の言

葉で書くことによって学習内容の定着を図っていききたい。

3 単元の指導目標および評価計画

(1) 単元の指導目標

鎌倉幕府の滅亡や室町幕府の誕生、戦国大名の登場を通して、武士の支配が全国に広まっていく流れを理解することができる。

モンゴルの来襲や日明貿易など東アジアとの関わりから日本に与えた影響を理解することができる。

都市や農村で自治の仕組みが生まれた原因を農業などの産業の変化から考えることができる。

武士や民衆の力で生み出された文化の特色を理解させ、その特色が現在の生活の中につながっていることに気づくことができる。

(2) 指導計画と評価計画

時	指導内容	観 点 別 評 価 規 準			
		社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用技能・表現	社会的事象についての知識・理解
1	モンゴルの襲来と日本 ・モンゴル帝国の拡大	史上最大の広さをもつモンゴル帝国に関心を持ちその成り立ちを追求することができる。		地図「モンゴル帝国の拡大」からユーラシアという大きな世界が誕生したことを読み取ることができる。	モンゴル帝国が成立し、帝国から分裂した元によって中国が支配されたことを理解できる。
本時	モンゴル帝国の襲来と日本 ・元の二度の襲来 ・鎌倉幕府の滅亡		モンゴルの襲来が国内の政治に及ぼした影響を、幕府を支えていた御家人の動きから考えることができる。	絵巻物「蒙古襲来絵詞」からモンゴルの襲来の様子について読みとることができる。	
3	南北朝の動乱と東アジアの変動 ・南北朝の動乱 ・東アジアの変動 ・琉球と蝦夷地			日明貿易、琉球の国際的役割、蝦夷地の動きなどをまとめ、東アジアの白地図にまとめることができる。	建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を理解できる。
4	室町幕府と経済の発展 ・室町幕府のしくみ ・産業の発達 ・市のにぎわいと都市の成長		農業や商業・手工業の発達が社会をどう変化させていくかを考えることができる。		室町幕府のしくみの概略をまとめ、鎌倉幕府のしくみと比較しながら武家政治の特色を理解できる。
5	民衆の成長と戦国大名 ・村の自治 ・応仁の乱 ・戦国大名の登場と城下町	この時代に士一揆が多発したことに対する関心を高め、一揆を起こした民衆の要求や一		歴史地図「おもな戦国大名」の分布図から、下剋上の風潮が全国に広がったことを読み取ることが	

		揆の結果を追究することができる。		できる。	
6	室町文化とその広がり ・室町の文化 ・武家文化の成長 ・民衆への文化の広がり	日本の伝統文化に関心を持ち、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを見いだすことができる。		金閣、銀閣などの写真資料からそれぞれの時代の文化の様子を、比較をしながら読み取っている。	

4 本時の指導

(1) 本時の目標

モンゴルの襲来のようにすについて資料から読み取ることができる。【資料活用の技能・表現】
モンゴルの襲来は幕府にどのような影響を与えたのか、考えることができる。

【社会的な思考・判断】

(2) 本時の評価規準

評価の観点	評価規準	具体的評価規準		c 努力を要する生徒への指導の手立て	評価場面 (方法)
		A 十分満足できる	B 概ね満足できる		
社会的な思考・判断	モンゴルの襲来が国内の政治に及ぼした影響を、幕府を支えていた御家人の動きから考察している。	御家人の経済負担についてふれながら幕府の滅亡の理由を説明できる。	御家人の経済的負担が幕府の滅亡につながることを理解できる。	石塁の写真に注目させ経済的な負担があったことに気づかせる。	学習シートへの記入 (観察・発言)
資料活用の技能・表現	絵巻物「蒙古襲来絵詞」からモンゴルの襲来の様子について読みとるなど、歴史資料を活用している。	絵巻物からモンゴル軍と日本軍の戦法のちがいを説明できる。	絵巻物からモンゴル軍と日本軍の戦法のちがいを理解できる。	視点を与えて絵巻物を注目させる。	学習シートへの記入 (観察・発言)

(3) 研究内容との関わり

ア 本時の基礎・基本

モンゴル軍と日本軍のちがいについて絵巻物から読み取ることができる。

【資料活用の技能・表現】

モンゴル軍の襲来をきっかけとして鎌倉幕府が滅亡していくことを理解することができる。

【社会的事象の知識・理解】

イ 定着を図る指導の工夫

前時の復習の場面で教科書を音読し、全員が既習事項を思い出した上で授業に入る。
資料の現代語訳を音読し、歴史的な影響を与えた資料の理解を図る。
資料から歴史的な事象の特徴を読み取り、文章でまとめる。

ウ 動機付けの工夫

取り上げる歴史的な事象に関する写真「敵国降伏」を提示する

【社会的事象への興味・関心】

課題を追求するために絵巻物「蒙古襲来絵詞」を配る。

【社会的事象への興味・関心】

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	指導および支援の手立て 指導の留意点 支援	評価の視点 具体的評価規準(評価方法)	研究内容との 関わり
導入 10分	1 モンゴル帝国や元について復習する。 2 年表から元がつけられたあと鎌倉幕府が滅びたことを確認し、課題を設定する。	教科書を音読することで既習事項を確認する。		音読
なぜ鎌倉幕府は滅びたのか				
展開 35分	3 絵巻物から元との戦いの様子について調べる。 4 元との戦いの流れについてまとめる。 5 御家人に与える元寇の影響について考える。	「敵国降伏」額の写真 絵巻物の写真を配り元と日本のちがいを見つけださせる。 気づいたことをシートにまとめ毎にまとめ発表できるように文章化させる。 2度の襲来や襲来の失敗についてしっかり確認させる。 自分で予想を立てグループで討議を行い自分の考えを深め、発表できるように文章化させる。 石塁の写真を見て財政的な負担に気づかせる。 分割相続について図を用いて復習させる。 恩賞がなかったことで封建制度の前提が崩れたことを気づかせる。 永仁の徳政令を音読しその内容と効果、影響から御家人がどうなったか予想させる。	【資料活用の技能・表現】 A 絵巻物からモンゴル軍と日本軍の戦法のちがいを説明できる。 B 絵巻物からモンゴル軍と日本軍の戦法のちがいを理解できる。 (話し合い・発表) 【社会的な思考・判断】 A 御家人の経済負担についてふれながら幕府の滅亡の理由を説明できる B 御家人の経済的負担が幕府の滅亡につながることを理解できる。 (発表)	興味・関心 教材の工夫 転写法 基礎・基本 転写法 音読
終末 5分	6 幕府が滅びた理由をまとめる。 7 次時の予告			基礎・基本
元寇で御家人はお金をかけて戦い恩賞もなく借金もできなくなった。幕府は御家人からの信用を失い滅びた。				